

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-12508

(43)公開日 平成5年(1993)2月19日

(51)Int.Cl.⁵
E 0 4 B 2/74

識別記号 庁内整理番号
5 4 1 A 6951-2E
P 6951-2E
5 6 1 H 6951-2E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-60433

(22)出願日 平成3年(1991)7月31日

(71)出願人 000140982

株式会社間組

東京都港区北青山2丁目5番8号

(72)考案者 澤田 欣也

東京都港区北青山2丁目5番8号 株式会
社間組内

(72)考案者 郡司 清

東京都港区北青山2丁目5番8号 株式会
社間組内

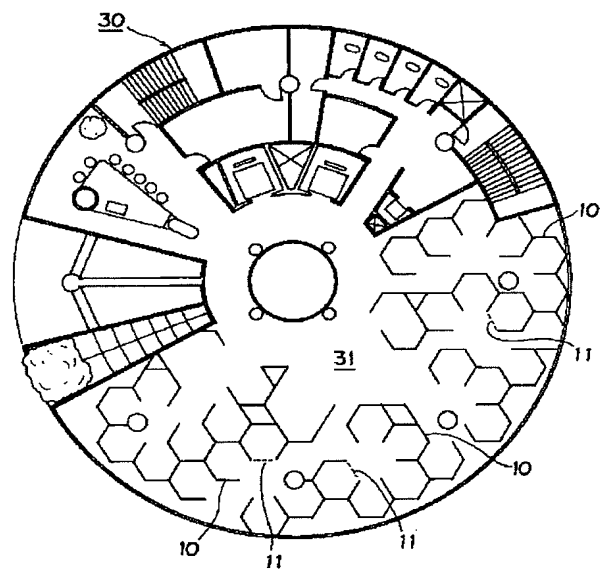
(74)代理人 弁理士 酒井 一 (外2名)

(54)【考案の名称】 オフィスパーティション

(57)【要約】

【目的】 オフィス空間の分割方向を直角二方向に定義することなく、無方向性の分割により、円形や、多角形の平面形状を有するオフィス空間に対しても自然な分割による快適かつ機能的なワークステーションの創造を可能にする

【構成】 オフィスパーティション10を、六角筒体11を筒体軸と平行な面で切欠いた形状を有するものとして構成し、これを組み合わせて、基本となる六角筒体11の無方向性により、四角形のみならず円形や、多角形等の平面形状を有するオフィス空間31に対しても、自然な分割によりその形状に調和して空間31を画定する。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 オフィス空間を画定してワークスペースを形成するオフィスパーティションであって、該パーティションが六角筒体を筒体軸と平行な面で切欠いた形状を有することを特徴とするオフィスパーティション。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案のオフィスパーティションの一実施態様を例を示す斜視図である。

【図2】 (イ)～(ヘ) は本考案のオフィスパーティションの他の実施態様を示す平面図である。

【図3】 円形の平面形状を有するオフィス空間を、本考*

* 案のオフィスパーティションにより画定した場合の一例を示す平面図である。

【図4】 平面形状を有するオフィス空間を、本考案のオフィスパーティションにより画定した、他の一例を示す平面図である。

【符号の説明】

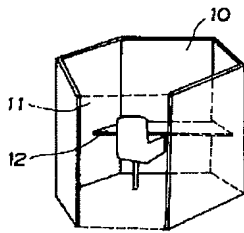
10、21、22、23、24、25、26 オフィスパーティション

11 六角筒体

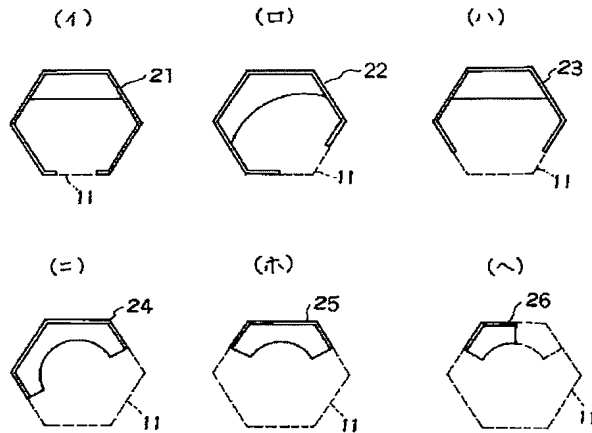
12 デスク

31 オフィス空間

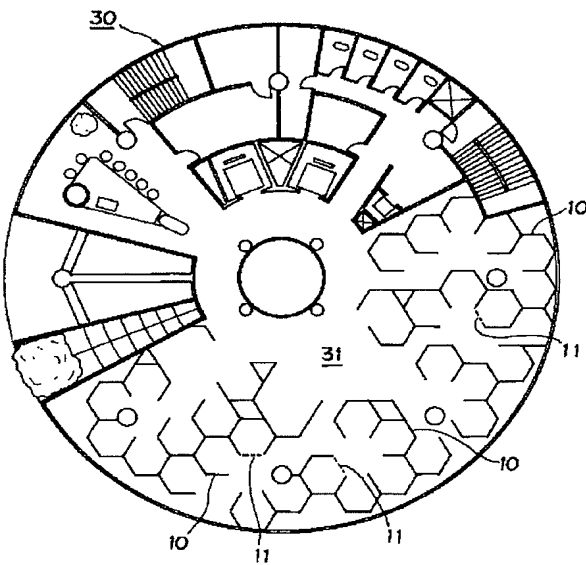
【図1】



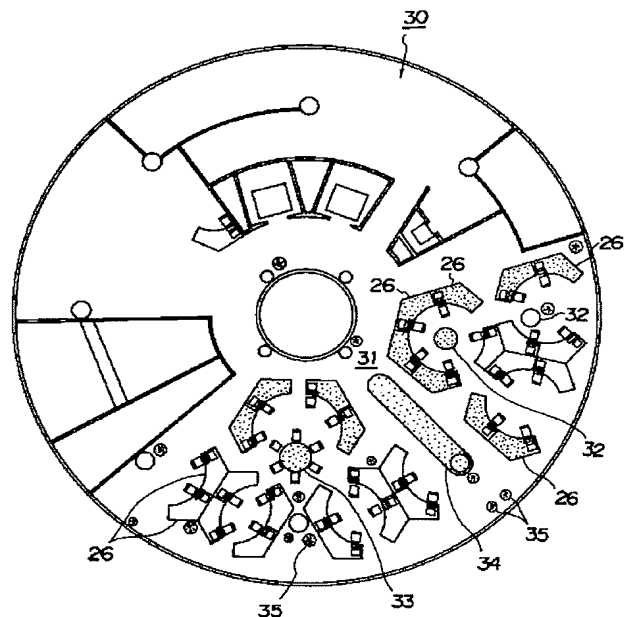
【図2】



【図3】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案は、オフィスパーティションに関し、特に、四角形のみならず円形あるいは多角形等の平面形状を有するオフィス空間にも適用可能なオフィスパーティションに関する。

【0002】**【従来の技術】**

オフィス空間を分割画定して快適なワークスペースを形成するべく、間仕切としてのオフィスパーティションが各種採用されている。そして、かかるオフィスパーティションは、四角形のオフィス空間を念頭においた間仕切として用いられていたため、二方向すなわち直交するXY軸方向にオフィス空間を画定してゆく考えが基本となっていた。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記従来のオフィスパーティションでは、一般的な四角形に準じた平面形状を持つオフィス空間に対してはその形状に調和して効率よく二方向に空間を画定して行くことができるが、円形や、多角形の平面形状を有するオフィス空間に対しては、XYという明らかな直角二方向の軸線を定義してしまうことになり、その形状に調和した自然な分割による快適かつ機能的なワークスペースを形成することが困難であった。

【0004】

そこで、本考案は上記問題点を解消すべくなされたもので、オフィス空間の分割方向を二方向に定義することなく、無方向性の分割により、円形や、多角形の平面形状を有するオフィス空間に対しても自然な分割による快適かつ機能的なオフィス空間の創造を可能にするオフィスパーティションを提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、上記目的を鑑みてなされたものであり、その要旨は、オフィスパーティションを、六角筒体を筒体軸と平行な面で切欠いた、1～6箇所角部を有するパーティションとし、これを任意に組合わせて、例えばハニカム状に多方向にオフィス空間を画定してゆくことのできるオフィスパーティションにある。

【0006】

ここで、各パーティションを組み合わせるには、パーティションの外周面あるいは端辺を互いに当接させることによって連設してゆく。そして、各パーティションの基本形状となる六角筒体は、角部が 120° という無方向性の角度を有し、これによって、四角形に限らず、円形、多角形等任意の平面形状を有するオフィス空間に対しても、自然な分割による空間の画定を可能にする。

【0007】

また、各パーティションには必要に応じデスク等の付属設備を取付けることもできる。

【0008】

【実施例】

次に、本考案の一実施例を添付図面を参照してより詳細に説明する。

【0009】

図1に示すように、本実施例のオフィスパーティション10は、六角筒体11を該六角筒体11の軸と平行な面、すなわち図における鉛直方向の面によって切欠いた、六角筒体11の一つの面を削除したものとして構成されている。そして、その内部にはデスク12を取付け、個人用のワークスペースを形成している。また、かかるパーティション10は図1の形状のものに限られず、図2に示すように種々の単位体として用いられる。すなわち、例えば(イ)に示すパーティション21は、その一つの面の一部を削除した6箇所の角部を有するものであり、(ロ)に示すパーティション22は1箇所の角部とこれを挟む面の一部を削除した5箇所の角部を有するものである。同様に(ハ)のパーティション23、(ニ)のパーティション24、(ホ)のパーティション25、(ヘ)のパーティション26は各々4箇所、3箇所、2箇所、1箇所の角部を有するものである。そして、これらのパーティションは角部が 120° の同一の断面形状を有する六角筒

体11を基本形状としているため、例えば(ホ)のパーティション25と(ヘ)のパーティション26とを組み合わせることによって(ニ)のパーティション24を構成することができる。また、各パーティションには、図2に示すように、必要に応じて任意形状のデスクを予め取付けておくことができ、さらにその他の付属設備を取付けておくこともできる。

【0010】

そして、かかるオフィスパーティション10を用いれば、基本となる六角筒体11の面を合致させつつ、図3に示すように、ハニカム状に連設してゆくことができる。すなわち、円形の平面形状を有する建築物30のオフィス空間31において、縦横の方向に限定されることなく、六角筒体11の無方向性により空間外周の円弧形状に調和した自然な分割を可能にし、快適かつ機能的なオフィス空間を創造する。

【0011】

また、図4では、図3のものより大きな六角筒体を基本とする(ヘ)のパーティション26を組み合わせて、ミーティングや複数人のチームのためのワークスペースを画定したものである。かかる画定方法による場合も、周囲の円弧形状と調和した自然なオフィス空間を提供するとともに、基本形状が六角筒体であるため、パーティション26毎に従業者が着席して執務を行なっても隣席の従業員が斜め後方に位置するため目に入らず、したがって集中して執務を行うことができる。また、隣席の従業員との会話が必要な場合には横を向くだけでこれを行なうことができ、さらに画定する六角形の内方にテーブル32を設ければ、各従業員が振り向くことにより容易に打合せを行なうことができる。さらにまた、他のオフィスファニチュア33、34や鉢植えの植物35等を適所に配置することにより、さらに快適かつ機能的なオフィス空間を創造することができる。

【0012】

【考案の効果】

以上のように、本考案のオフィスパーティションは、六角筒体を筒体軸と平行な面で切欠いた形状を有するものからなるので、基本となる六角筒体の無方向性により、オフィス空間の分割方向を二方向に定義することなく、円形や、多角形

の平面形状を有するオフィス空間に対してもその形状に調和した自然な分割による快適かつ機能的なオフィス空間の創造を可能にすることができる。